



▲ 新米の刈取りを行う池岡真吾さん ((有) ほなみ・夕張太西幌)

無事に刈取り開始!

町内では9月中旬より、平成29年産米の刈取りが行われました。

本年は、北海道に台風上陸のおそれもあったため、その前に刈取りする姿が見られました。また、台風通過後にも断続的な雨により刈取りがあまり進まない状況でもありましたが、倒伏があまり見られることがなくほっとしたようにも感じられました。

なお、本年の新米につきましては、収量は平年並みですが、品質については良いものと思われまます。

くみあいたより

JAなんぼろ



JA なんぼろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

収穫感謝祭開催

8月26日（土）、エーコープなんぼろ店駐車場特設会場で、南幌町蔬菜園芸組合主催の2017なんぼろ収穫感謝祭が行われました。

当日は、新鮮な南幌産農産物が安価で販売されるため、販売開始の午後2時よりも前に長蛇の列ができました。販売開始に先立ち、蔬菜園芸組合の熊澤組合長（晩翠）より挨拶があった後販売されました。

野菜の販売では、ブロッコリーやキャベツ等が50円、玉ねぎ5kgネットが300円で販売されました。JAなんぼろ青年部は、なんぼろピュアライスななつぼしの格安販売や野菜の重量当てクイズを行い、JAなんぼろ女性部は、ひもクジや各部会の商品を感じ祭特別価格で販売しました。キャベツキムチのつかみどりでは、多くの消費者の方々に参加いただき、行列が絶えることなく盛況となりました。また、キャベツチくんも登場し、子供たちが周りを囲むなど賑わいました。

最後には、豪華景品もちまきが行われ、多くの人たちの笑顔がこぼれ大盛況の収穫感謝祭となりました。



来年度の小麦に向けて

8月29日（火）、JAなんぼろ3階大会議室で平成30年産小麦播種前講習会が開催され、約40名の組合員が集まりました。

講師として、空知農業改良普及センター空知南西部支所の岡野専門普及員と雪印種苗株式会社の佐久間氏をお招きしました。

岡野専門普及員からは、平成29年産小麦作柄についてと平成30年産小麦栽培に向けて話されました。佐久間氏からは、輪作体系への緑肥作物の組み込み方について話され、各作物ごとに適した緑肥の導入方法について具体的な説明がありました。

その後、JAからの情報提供として小麦の病害虫についての発生要因分解報告や町内ほ場の事例報告等が行われました。来年度産小麦に向け組合員皆さんが真剣に話を聞き良い講習会となりました。



▲ 佐久間氏による講習の様子



▲ 真剣に話を聞く組合員の皆さん

◆第2回グリーン未来塾

8月28日(月)、第2回若手女性農業者サークル「グリーン未来塾」が開催され、フレッシュミズ7名とお子様6名が参加しました。今回は岩見沢市にある、佐藤食品工業(株)北海道工場へ行き、「サトウのごはこ」や「サトウの切餅」の製造工程を見学しました。

次に(株)白亜ダイシンNORTH FARM STOCKへ行き、会社の歴史やコンセプト、商品へのご様子などのお話しを聞かせて頂きました。部員たちは商品について質問するなど、積極的に研修に参加していました。



○グリーン未来塾は年に4回活動しています！
次回は10月末に開催予定！

質問・お問い合わせは役場産業振興課 山本まで

(011-372-81221)



発行者
JAなんぼろ青年部
編集責任者 石川 卓也

収穫感謝祭で南幌町にアピール

8月26日(土)、エコープなんぼろ店駐車場特設会場で、2017なんぼろ収穫感謝祭が開催されました。

当青年部では、米消費拡大と南幌産産物のPRのため、なんぼろピュアライスななつぼしの販売と盟友達で持ち寄った野菜の詰め合わせを使った「野菜重量当てクイズ」を行いました。

お米の販売時には、当青年部作成のファームレターを封入し青年部活動のアピールも行い、開始早々にお米が完売する大盛況となりました。野菜重量当てクイズでは、40名の応募者の中から予想が一番近かった方にクイズで使った野菜をプレゼントしました。



▲ なんぼろピュアライスななつぼしの販売



▲ 野菜重量当ての様子



▲ ピザ作りの様子



▲ 消費者との座談会の様子

町外消費者と食と農について交流会
9月16日(土)、ホクレンくるるの杜で行われたもぐもぐ会議特別イベント「だいちのキッチン」に当青年部が参加いたしました。
もぐもぐ会議「だいちのキッチン」というのは、生産者と消費者が食と農について話し合ったり、一緒に料理を作ったりするものです。
当日は、当青年部盟友4名が参加しました。最初に参加盟友の自己紹介を行った後、当町の農産物を使ったピザ作りを行いました。
ピザ作り後には、パワーポイントを使って南幌町と農産物の説明、当青年部の活動紹介を行いました。その後、消費者の方との座談会が行われ、消費者から普段感じていることを聞き、盟友にも改めて農業というものの勉強する良い機会となりました。

J A北海道大会実践フォーラム

パネルディスカッション

テーマ「道民と食と農でつながる」

サポーター550万人づくりに向けて

「道民と食と農でつながるサポーター550万人づくりに向けて」と題したパネルディスカッションの内容をシリーズでご紹介する最終回をお送りします。

宮入 隆 氏

北海学園大学 教授



高橋常務にお伺いしますが、単発ではなく、息の長い形で関わる取組みがあれば教えてください。

高橋 優 氏

J Aきたみらい 常務理事
(事例発表者)

北見では毎年秋ごろに菊まつりという行事がありま



す。今年は趣向を凝らそうとということで、ハロウィンとの相乗効果を狙うことになりました。春からかぼちゃの苗を育てて、それを市民の皆様無料で提供しました。苗の提

供と合わせて、作り方も色々と指導させて頂いて、出来上がったかぼちゃを会場に持ってきてもらうという試みを初めて開催しました。作物を育てながら、毎日作物が大きくなっていく姿を見るのができ、また、収穫までの喜びが伝わるという点で良かったと思います。最後に行った仮装コンテストでは、若い人たちが200人位集まり、町中仮装でにぎわいました。育てる喜びを伝える取組みとして、また、町を元気にするカンフル剤としてもやって良かったです。こうした取組みをもっと少し広げていきたいと思っております。

河野 真也 氏

タレント



ハロウィンって元々収穫祭ですよ。北海道って色々なものが収穫出来ますから、これが本当のハロウィンだということお祭りが各地で立ち上がればいいなと思います。そして、まずは何でもいので話題になることが大切だと思うんです。話題を作った後、それぞれで作る素晴らしいものを知って貰えたらいいですよ。例えば農家さんがすぐくウオリティーの高い仮装で直売所に並んで野菜を売るとか。これ多分テレビの取材が来ると思うんです。何か特徴があると取材に来てもらいやすいということがあります。だから話題作りで他とは違う変わったやり方をするJ Aさんがあってもいいなと思います。

宮入教授 いいですね。変わったことでまず一回引き付けて、それを入口にしようということですね。

河野氏 大変です、苦労していますという話はいっぱい出てくるんですよ。皆さんがそれぞれ一生懸命お仕事されていることは僕らも取材で理解しました。でも入口はそこだと難しく、多分テレビのディレクターさんが番組を作るときに考えるのは、出演者のリアクションだと思います。そうなる、そのための題材が欲しいと思いますよね。これは視聴者もそうで、たとえば誰も知らないスポーツ選手の苦労話をテレビでされてもみんな食いつかないと思います。でもその選手が有名になってから、実は裏でこんな苦労がありましたってなれば、よりみんな応援してファンになると思います。だからまずは話題を作って知って貰い、おもしろいと思っ貰うことが大事。そして、食べてファンになって貰う。僕が取材に行っと思うのが、農家さんって上を、空を見ているんですよ。札幌の街は下を向いて歩いてる人も多いですが、農家さんは天気を見るから上を向いているんです。僕はこれが好きで、その生き生きとした様子を伝えるためにも暗いことばかりを伝えちゃだめだと思えます。辛いこと、大変なことはあとから知って貰えばいい。まずは素敵だな、明るいなと思っ貰える情報が発信されたいなと思います。

宮入教授 素敵な話ですね。確かにまず大変だという話をしたくなりますが、そうではなくて、楽

しいことや、人に集まって見てもらいたいということがあると思います。それを前面に出すことが入口として大切だし、サポーターになってくれる地域の人にごんな姿を見せるかということにも関わると思います。

それでは最後に、サポーター550万人づくりの観点から、パネリストの皆さんが今後の農協に期待したいこと等、一言ずつ頂きたいです。

河野氏 僕が今日のお話の中で、いいなと感じたのが漁協さんなどの連携です。それぞれの地元には農業以外のいいものがあります。きたみらいさんで言えば置戸町にオケクラフトがあるじゃないですか。たとえばオケクラフトの木の食器と農産物とで食のセットをつくることで、オケクラフトのファンと、きたみらいさんの農産物のファンをお互いに紹介し合えます。それぞれのファンを独り占めせず、お互いに分け合う動きが広がるいいなと思いました。



高橋さやか 氏

食育フリーマガジン
moggmag 編集長
やはり地域や人との繋がりは大切だと感じました。農協だけで何かをするより、色々な分野の方々と手を組

むことによるコミュニケーションや関わりからファンやサポーターが出来ると思います。

森川 純 氏

北海道新聞社 論説委員

農協さんに期待したいことは2つあります。まず、生乳の指定団体制度については、共販制度がしっかり



していないと小さな酪農家さんは大変なことになります。反対すべきものは反対して頂きたいです。2点目は農家さんと消費者が出会う場を作って頂きたいです。これが販売拡大や後継者問題の解決にも繋がると思います。多くの人はスーパーで食材を買うだけです。農家さんは話が楽しかったり、手料理が美味しかったりと非常に魅力的な方が多いので、素顔の農家さんと接する場をもっと作って頂きたいです。

高橋常務 先程からお話もありましたが、伝え方の難しさは強く感じます。グリーンズ北見という会社の作るコロッケが今年、コロッケのチャンピオンを決めるグランプリを頂きました。この商品自体は、実は10年以上前からつくられているものですが、商品のコーディネートプロの方にお願いすると、ポスター、話題性、伝えるテクニクによりここまでに広がりました。伝える工夫次第だと実感しました。

業の魅力、JAの活動、様々な情報を発信して関心を持って頂くきっかけとしてのアプリです。地道な取り組みではありますが、地域の方々にJAを知ってもらうチャンスとしてさらにご活用頂きたいです。550万人サポーターづくりは、JAと地域の方々为一体となった取組みに発展することを目指しています。さらに取組みを広げて頂くようお願いしています。



高橋 和則 氏

JA北海道中央会
総合企画部長

JAグループでは、「JA₂MP」というスマートフォンアプリを開発しました。農

宮入教授 農協に対する色々な期待を活かし、道民すべての人をサポーターにすることは非常にチャレンジングな話ではありますが、決して夢物語ではありません。生まれた時、子育ての段階から、高齢者になるまで、農協が色々な世代の人たちに関わる場面は今後もあると思います。どういう場で、誰に対してどのように発信するかということを考えて頂く、今日はそのきっかけとして、ヒントをひとつでも持ち帰って頂ければと思います。パネリストの皆様、お忙しいところありがとうございました。

第だと実感しました。

ご契約の自動車が事故や故障に見舞われたときは

ご契約のJA(業務時間内)もしくは フリーダイヤル 安心サービス 24時間・365日対応	事故等の場合には JA共済事故受付センター ジコは クミアイ 0120-258-931
	レッカー移動や 故障時の応急対応が 必要な場合には JA共済サポートセンター レッカーロードサービスは クミアイ 0120-063-931

フリーダイヤル 携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

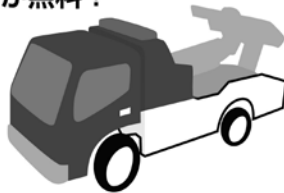
電話料金は無料です。公衆電話につきましては、電話をおかけになる時の10円は必要ですが、かけ終わると戻ります。

安心の5つのサービス

1 レッカーサービス

現場から30km以内のけん引が無料!

事故または故障により自力走行不能となった場合に、レッカー車で現場へ急行し、最寄りの修理工場等までお車をけん引します。



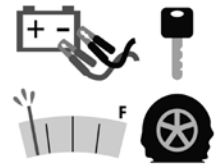
事前にJAまたはJA共済サポートセンター(JA共済事故受付センター)に要請された場合に本サービスの対象となります。(ご自身で手配された場合は本サービスの対象外となります)

※トラブルの状況や手配内容によっては、お客さまに費用のご負担が発生する場合があります。
 ※ロードサービスについて、30分を超過した場合の超過時間に応じた作業にかかる費用、部品代・オイル代・ガソリン代等の実費は、サービス利用者のご負担になります。
 ※JAF会員であるお客さまについては、お客さまのご了承のもと、JA共済事故受付センターまたはJA共済サポートセンターからJAFを手配する場合があります。その場合、レッカーサービスのけん引距離については現場から45キロまでのけん引に要する費用をサービス対象範囲とします。ロードサービスの作業時間については30分程度で対応可能な応急対応に要する費用に加え、30分を超過した場合の超過時間に応じた作業にかかる費用について4,000円を限度にサービス対象範囲とします。

2 ロードサービス

30分程度で対応可能な応急対応が無料!

故障・ガス欠等により自力走行不能となった場合に、修理業者が現場へ急行し、お車の応急修理を行います。



3 夜間休日 現場急行サービス

JAの営業時間外にJA共済事故受付センター(フリーダイヤル)へご連絡いただいた事故について、対応員が事故現場に急行し、事故状況の聞き取りなどを行います。



※本サービスの受付時間は、平日:17時~23時、土日・祝日:8時~23時です。
 ※事故現場からお電話いただき、お客さまが現場急行をご希望された事故が対象となります。
 ※原則として、対応員の出勤拠点から事故現場まで30分程度で到着できることが条件となります。ただし高速道路上一部の場所は本サービスの対象外となります。
 ※JA共済より業務委託を受けた民間警備保障会社の対応員が急行します。

4 夜間休日 初期対応サービス

JAの営業時間外にJA共済事故受付センター(フリーダイヤル)へご連絡いただいた事故について、初期対応専任のスタッフがお客さまからの相談対応や相手方への迅速な対応(事故受付の連絡・修理工場への連絡・代車の手配等)を行います。

※本サービスの受付時間は、平日:17時~21時(対応は22時まで)、土日・祝日:9時~21時(対応は22時まで)です。
 ※対人賠償事故(人身傷害事故含む)、対物賠償事故、車両賠償費用保障特約の付いた車両単独事故が対象となります。

5 休日契約者 面談サービス

JAの営業時間外にJA共済事故受付センター(フリーダイヤル)へご連絡いただいた事故について、休日面談専任のスタッフがお客さまを訪問し事故に関するご質問・ご相談に親身におこたえします。

※本サービスの受付時間は、金曜・祝前日:17時~0時、土曜・終日、日曜・祝日:0時~17時です。
 ※対人賠償事故で、事故の相手方が入院または死亡された場合が対象となります。
 ※JA共済より、業務委託を受けた休日面談専任のスタッフに対応します。

24時間・365日、事故受付とアドバイス、各種サービスが受けられます。

■各種サービス共通の注意事項(サービスのご利用にあたっては一定の条件があります。)
 ※交通事情、気象状況等により、サービス業者の到着に時間がかかる場合またはサービスのご提供ができない場合があります。
 ※本資料は各種サービスに関するすべての内容を記載しているものではありません。サービスのご利用条件・提供範囲など、詳細については「ご契約のしおり・約款」等をご参照ください。

17010504024

平成29年12月29日まで

17フォームとくとくとく フラッシュ販売中☆☆

適用金利

変動金利
年

1.50% ~ 3.15%

保証料込

(通常時の店頭金利 変動 年4.90%)

【ご利用頂ける方】

借入時年齢20歳以上、完済時年齢76歳未満の方、安定継続した収入がある方、当JAが指定する保証会社の保証を受けられる方

【お借入金額】

10万円以上、1,500万円以内(1万円単位、所要金額の範囲内)

【お借入期間】

1年以上20年以内

【お使いみち】

借入申込者またはその家族が居住するための既存住宅の増改築、補修、住宅関連設備にかかる工事費用等(店舗および事業性資金は除きます)

【担保・保証人】

原則として不要です。但し、当JAが指定する保証会社の保証が必要となります。※保証料が別途必要となります。

【団体信用生命共済】

場合により加入が必要となります。

※金利軽減条件については当JA所定の基準がございます。詳しくは店頭までお問い合わせください。

※適用金利は金利情勢等の変化により見直しさせていただく場合があります。

※審査の結果、ローン利用のご希望に添えない場合もございますのでご了承ください。

お借入金額 100万円

変動金利 年利率 1.60%の場合

1. 元利均等毎月返済の場合

ご返済金額(保証料込)

借入期間	3年	5年	7年
ご返済額	28,468円	17,353円	12,591円

2. 元利均等毎月返済・ボーナス併用の場合

ご返済金額(保証料込)

借入期間	3年	5年	7年
毎月返済	17,080円	10,411円	7,555円
ボーナス返済	68,545円	41,781円	30,315円

※毎月返済分60万円、ボーナス返済分40万円として計算

店頭にて返済額を試算いたします。また詳しくは店頭にて説明書をご用意しておりますので、お気軽にご相談・お問い合わせください。

JAバンクなんぽろ

TEL 011-378-1891 (直通)

011-378-2221 (代表)

「JAとのお取引はこれから」というお客様もお気軽どうぞ(ご利用に関しては、組合員加入のための出資が必要となる場合がございます)。

理事会報告

9月12日

9月理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議案】

- 1、出資金の減口について
- 2、固定資産の除却について
- 3、規程類の改正について

【報告事項】

- 1、第5回 営農振興組合長会議の開催結果について
- 2、農産物の生育状況について
- 3、平成29年度 畑作物の直接支払交付金における営農継続支払交付金について
- 4、平成28年度産米の追加概算金支払いについて
- 5、平成29年度産米の系統共計契約について
- 6、平成29年度産米の系統共計契約について
- 7、平成29年度産米の系統共計契約について
- 8、8月末 農産物保管状況について
- 9、8月末 野菜販売状況について
- 10、平成29年度 南幌町穀類乾燥調製貯蔵施設小規模整備状況について
- 11、JASTEMシステム基盤更改危機管理計画書等の制定について
- 12、内部監査の結果報告について
- 13、第41回 JA夜まつりの実績報告について
- 14、平成29年度 8月末組合員異動状況について
- 15、平成29年度 第2四半期の固定資産の取得、処分について
- 16、要領の改正について
- 17、リスク情報について
- 18、8月末財務状況について

野祭くYASAIく開催

9月2日(土)、11時より役場駐車場で町内若手農業者を中心としたグループ「農猿」による野祭くYASAIくが開催され、当JA若手職員も参加協力いたしました。

11時の開始と同時に多くの露店で販売が開始されました。野菜販売ブースでは販売開始前から長蛇の列ができ、販売開始後も列が伸びていくほどの大盛況でした。他にも、南幌ジンギスカンの販売や町内飲食店等のブースが並び南幌町のPRを行っていました。会場にはトラクターの展示やミニトラクターの試乗、ミニゲーム等があり、子供たちが楽しそうに会場を走り回っていました。

午後からはトラクター綱引き対決が行われ、力自慢の方たちが大勢参加し会場を盛り上げていました。最後には、会長の米田昌樹さん(栄進)から挨拶があり、感謝の気持ちを込め、もちまきが行われ大盛況のお祭りとなりました。



▲ 農猿のメンバーで集合写真



▲ 野菜販売ブース

私達のJA

平成29年8月末日現在

組合員	2,825名
(前年同期比)	▲27名
正組合員	479名
(前年同期比)	▲22名
准組合員	2,346名
(前年同期比)	▲5名
正組合員戸数	303戸
(前年同期比)	▲10戸

職員人事異動

人事異動は左記の通りです。
退職(9月30日付)

▽石川 佑子(旧部署:総務部総務課)

編集後記

10月になり、1年の4分の3が過ぎてしまいました。外の気温もどんどん下がっていき季節の変化を肌で感じる事ができます。季節の変わり目は風邪には十分注意して過ごしましょう。

くみあいだより担当の平井は9月末で退職された石川職員(総務課)と写真を撮りました。

